

平成26年度 ワーク・ライフ・バランスおよび男女共同参画に関する県民意識調査結果 概要版

【調査目的】

この調査は、本県のワーク・ライフ・バランスや男女共同参画に係る現状と課題や施策ニーズを幅広く抽出し、平成27年度に策定する「男女共同参画計画」及び今後の男女共同参画に関する施策の企画・立案等の基礎資料とすることを目的としています。

【調査概要】

調査対象 : 山形県内在住の満20歳以上の男女個人
 調査期間 : 平成26年8月～9月 標本数 : 郵送による調査 2,000人
 調査方法 : 郵送による調査 層化二段階無作為抽出法(ウェイトバック集計)
 ウェブ調査 インターネットによる公開アンケート

有効回収数(率) : 郵送: 900件(45.0%) ウェブ: 106件

【概要版について】

本概要版は、郵送による調査結果を抜粋して作成しています。より詳細な結果については、報告書をご参照ください。

*各地域の抽出率の差を調整するため、回収数にウェイトを加重した規正標本数を基数として集計しています。
 *Nは集計対象者数(付問は設問該当対象者)で、設問により異なります。
 *百分比(%)は、小数点第2位を四捨五入し、第1位までを表示しています。合計は100.0%に一致しない場合があります。

1. 男女共同参画社会について

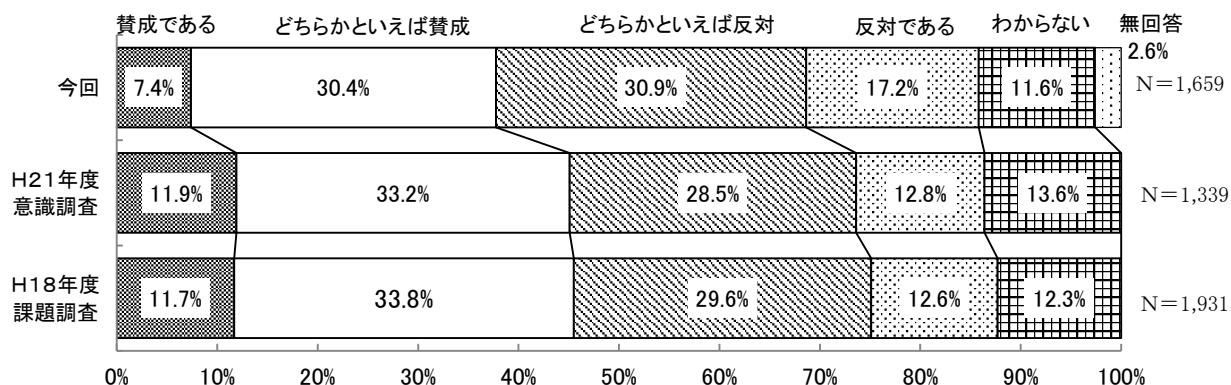
(1) 固定的な役割意識

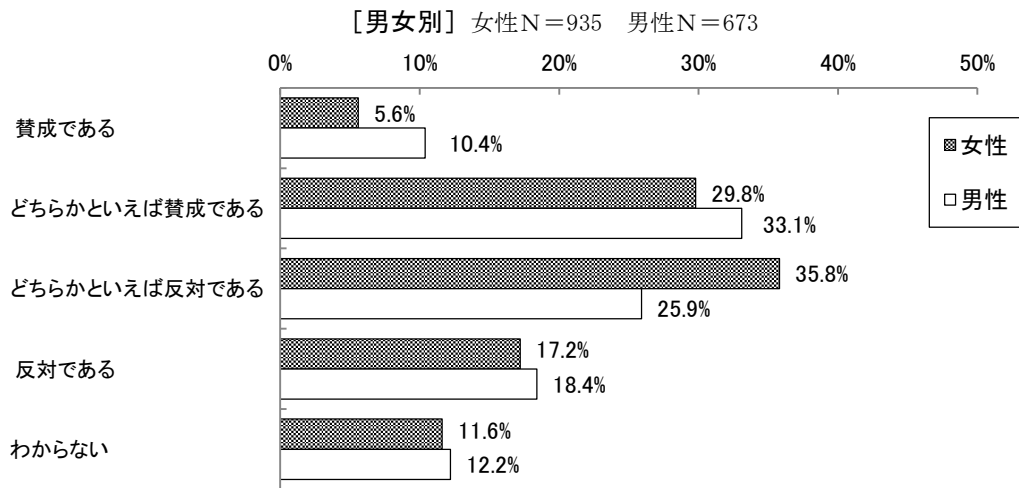
報告書 問1

「夫は仕事、妻は家庭を守る」という考えは、男女とも『反対』が多い

「夫は働き、妻は家庭を守る」という考え方についてどう思うかを尋ねたところ、「賛成である」と「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成』(37.8%)が、「反対である」と「どちらかといえば反対」を合わせた『反対』(48.1%)を下回り、前回・前々回調査と比較すると、初めて『反対』が『賛成』よりも多くなっています。

[前回調査との比較]



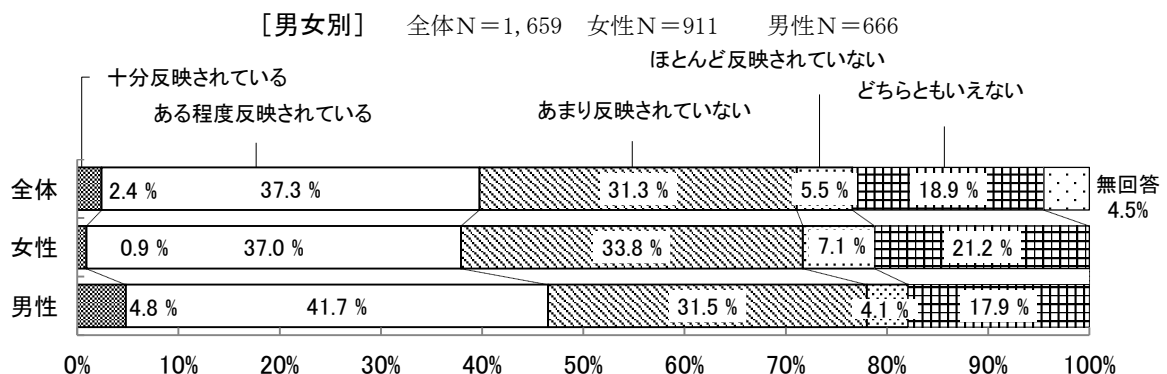


(2) 施策への女性の意見反映

報告書 問3

女性は『反映されていない』、男性は『反映されている』の割合が高い

県や市町村の施策について、女性の意見や考え方が反映されているかを尋ねたところ、全体では「あまり反映されていない」と「ほとんど反映されていない」を合わせた『反映されていない』(36.8%)よりも「十分反映されている」と「ある程度反映されている」を合わせた『反映されている』(39.7%)の割合がわずかに高くなっていますが、女性の回答を見ると『反映されていない』の割合が高くなっています。

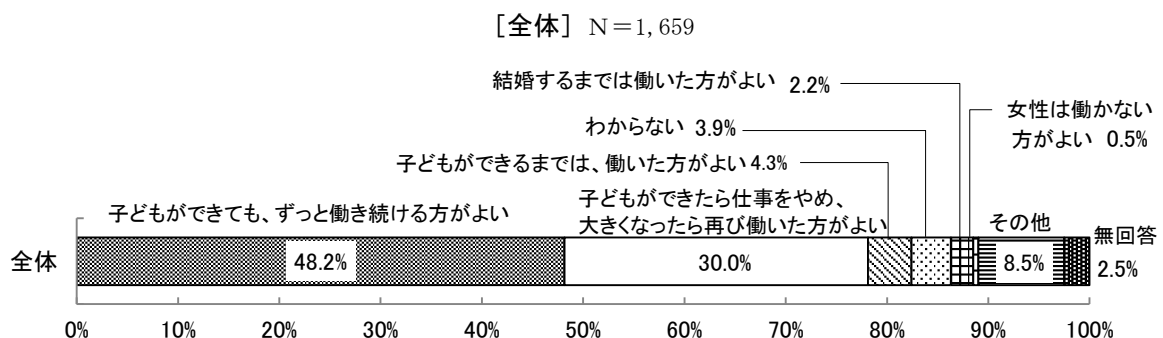


(3) 女性が働くことへの意識

報告書 問6

およそ半数の人は、子どもができて、ずっと働き続けた方がよいと考えている

一般的に女性が働くことについて、どう考えているかを尋ねたところ、「子どもができて、ずっと働き続ける方がよい」と答えた人の割合が最も高く、次いで「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び働いた方がよい」となっています。



2. 仕事と家庭の両立について

(1) ワーク・ライフ・バランスの実践

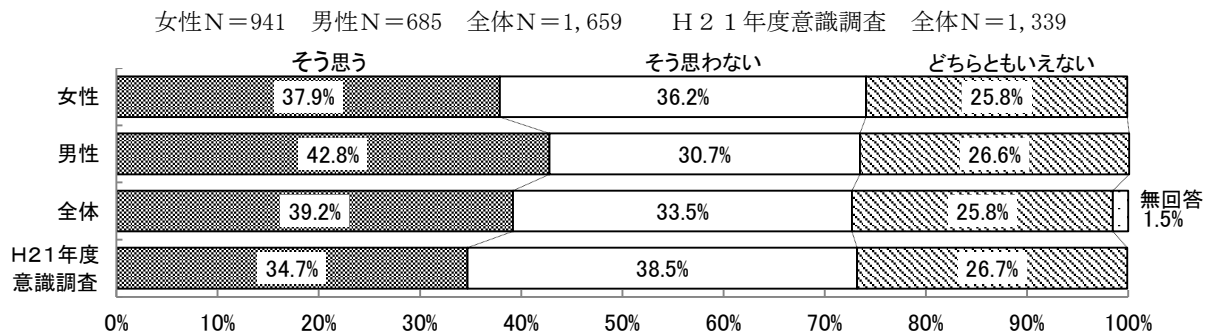
報告書 問9

バランスのとれた生活を過ごしていると思っている人は約4割

家庭生活、仕事、地域活動のそれぞれに関わり、バランスのとれた生活を過ごしていると思うかを尋ねたところ、全体では「そう思う」が約4割となり、女性よりも男性が多い割合となっています。

また、前回調査と比較すると、「そう思う」は4.5ポイント高くなり、「そう思わない」が5.0ポイント低くなっています。

[男女別・全体・前回調査との比較]



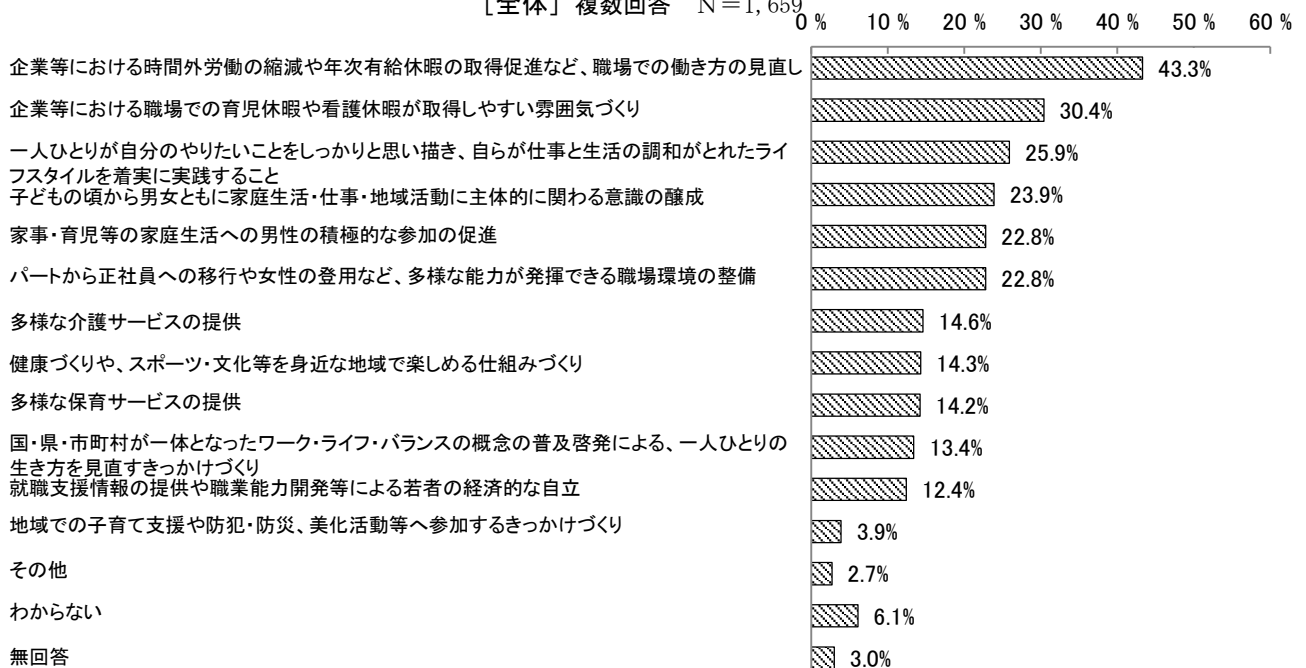
(2) 仕事と生活の調和について

報告書 問11

4割を超える人が、職場での働き方の見直しが必要と感じている

仕事と生活の調和について、必要だと思うことを尋ねたところ、『職場での働き方の見直し』や『休暇が取得しやすい雰囲気づくり』など職場環境の改善と答えた人の割合が高く、次いで『調和のとれたライフスタイルの実践』となっています。

[全体] 複数回答 N=1,659



3. 就業状況・職場環境について

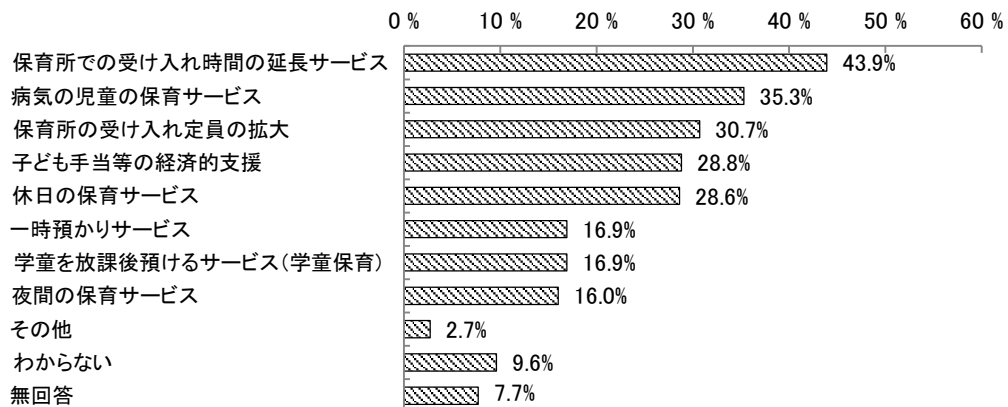
(1) 子育てに不足している行政支援

報告書 問14

保育時間延長と病気時保育、保育所の定員が不足していると考える人の割合が高い

働きながら子育てするうえで、現在の行政の支援で不足していると思われる保育サービスを尋ねたところ、「保育所での受け入れ時間の延長サービス」、「病気の児童の保育サービス」、「保育所の受け入れ定員の拡大」と答えた人の割合が3割を超えています。

[全体] 現在働いている人・複数回答 N=1,024



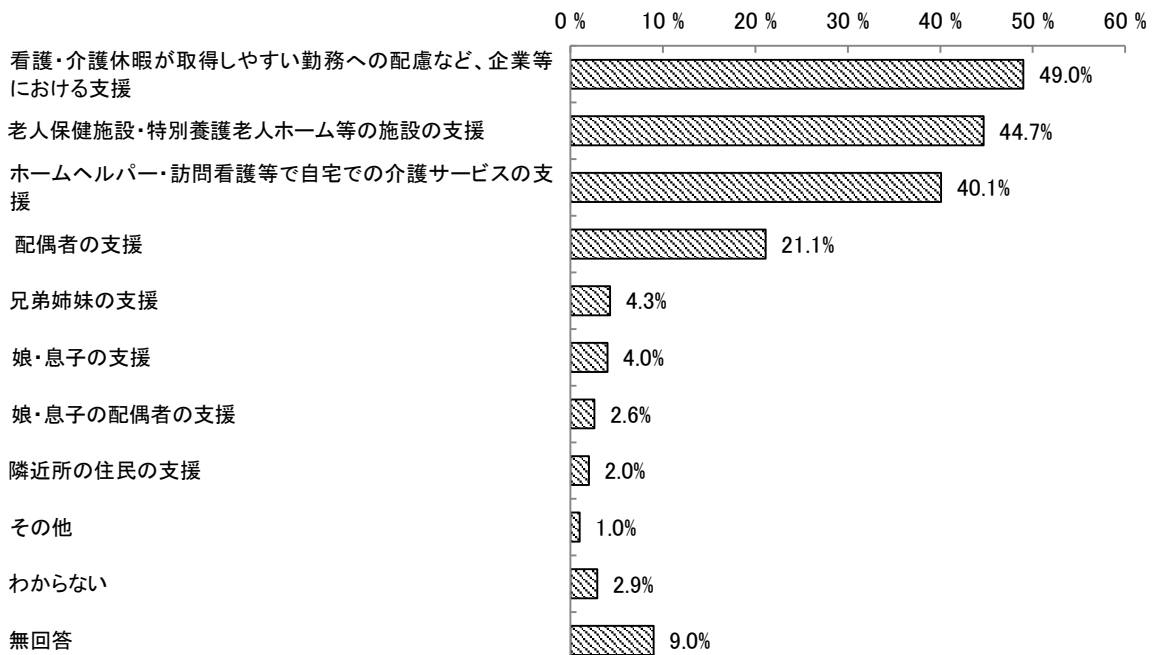
(2) 働きながらの看護・介護に必要な支援

報告書 問15

働きながらの看護・介護に必要なのは、勤務先の配慮と民間介護サービス

家族が病気等で看護・介護が必要になった場合、働き続けるためにはどのような支援が必要かを尋ねたところ、『勤務への配慮など、企業等における支援』の割合が最も高く、次いで『施設の支援』、『自宅での介護サービスの支援』となっています。

[全体] 現在働いている人・複数回答 N=1,024



4. 家庭生活について

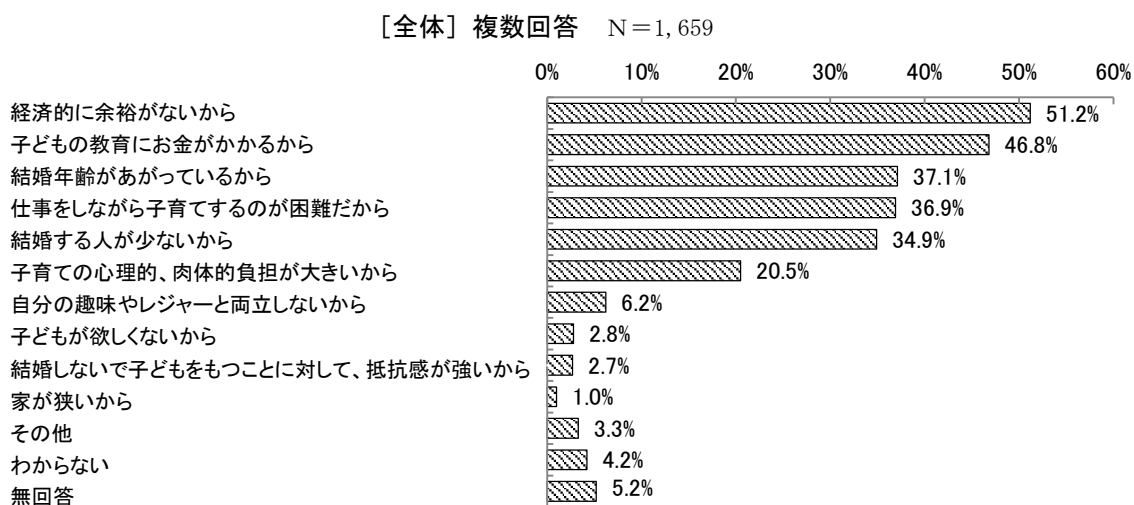
(1) 出生数減少の理由

報告書 問18

出生数減少は、経済的理由が大きいと考えている人の割合が高い

出生数が減少している理由について尋ねたところ、「経済的に余裕がないから」と回答した人の割合が最も高く、次いで「子どもの教育にお金がかかるから」となっています。

男女別に見ると、女性では「仕事をしながら子育てするのが困難だから」が3位に入っている一方、男性の3位は「結婚する人が少ないから」となっています。



[男女別] 複数回答 女性N=901 男性N=663

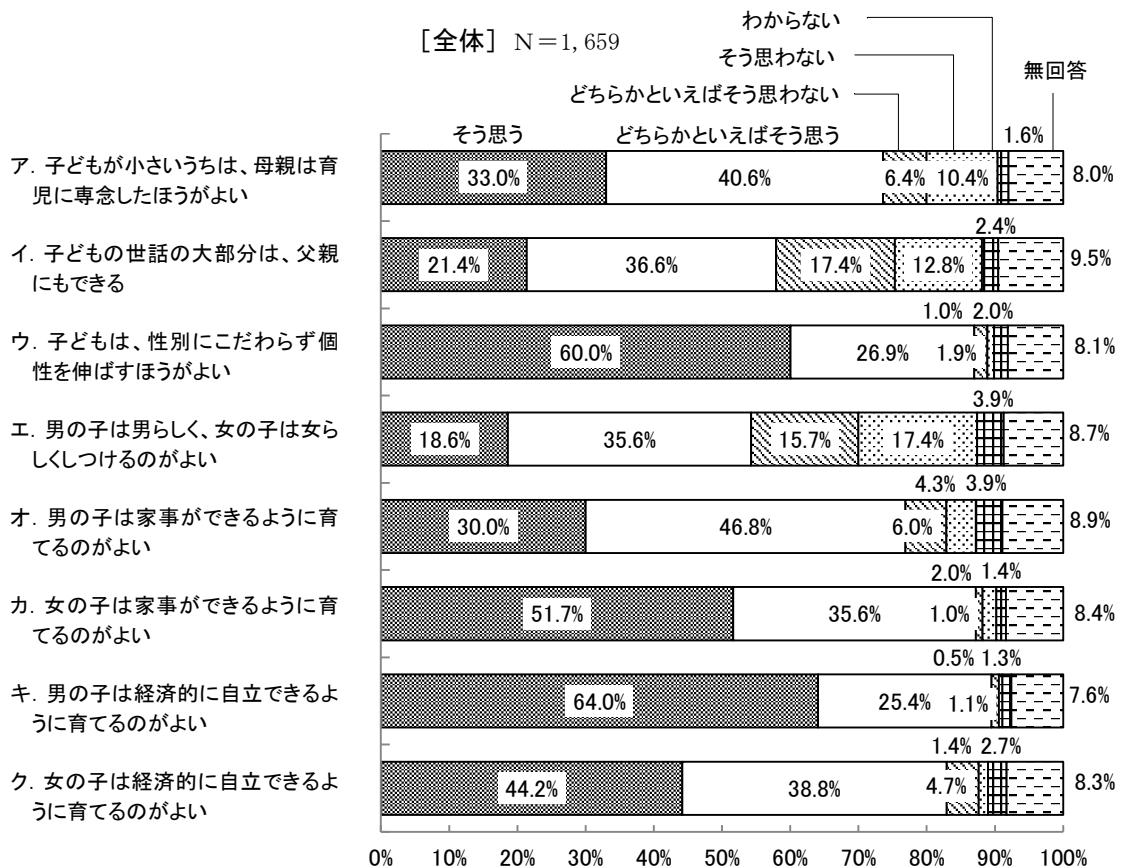
女 性			男 性		
1位	『経済的な余裕がない』	54.5%	1位	『経済的な余裕がない』	53.4%
2位	『教育費がかかる』	52.1%	2位	『教育費がかかる』	45.9%
3位	『仕事と子育ての両立が困難』	43.6%	3位	『結婚する人が少ない』	40.7%
4位	『結婚年齢があがっている』	43.1%	4位	『結婚年齢があがっている』	34.1%
5位	『結婚する人が少ない』	34.3%	5位	『仕事と子育ての両立困難』	32.7%

(2) 子育てについての考え

報告書 問20

性別による役割分業の意識は、女性よりも男性に高い傾向がある

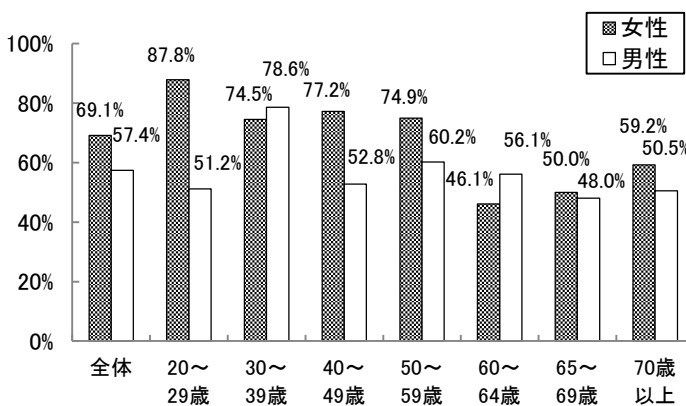
子育てについての考えを尋ねたところ、最も「そう思う」が多かったのは「男の子は経済的に自立できるように育てるのがよい」です。一方、性・年齢別に見ると、特に男女差が大きかったのは「子どもの世話の大部分は、父親にもできる」、「男の子は男らしく、女の子は女らしく」です。



子どもの世話の大部分は、父親にもできる

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」

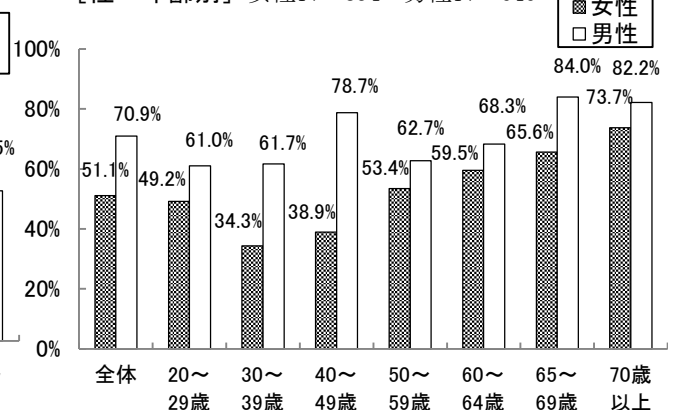
[性・年齢別] 女性N=851 男性N=636



男の子は男らしく、女の子は女らしく

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」

[性・年齢別] 女性N=854 男性N=646



5. 配偶者・パートナーからの暴力について

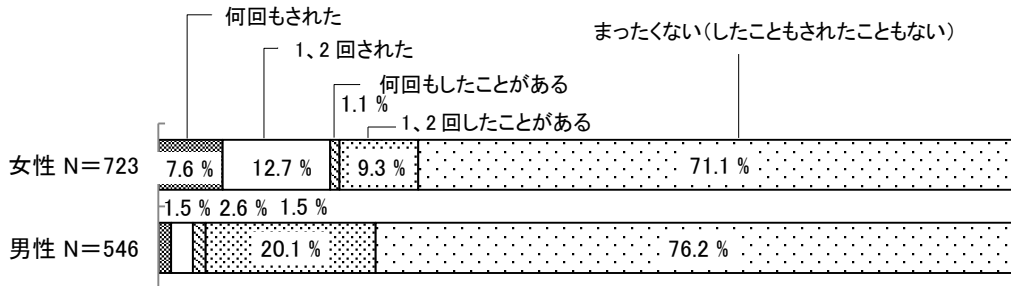
(1) DV (ドメスティック・バイオレンス) 経験の有無

報告書 問25

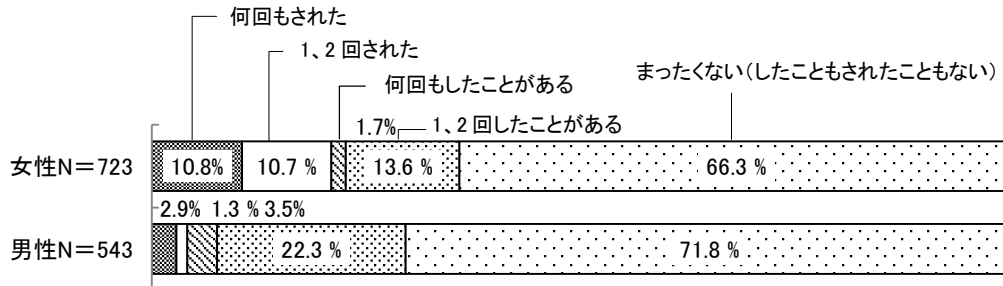
女性の約2割が身体的、精神的なDVを受けた経験がある

配偶者やパートナーからの暴力の被害経験について尋ねたところ、「何回もされた」と「1、2回された」を合わせた『された』の割合は、『精神的暴力』が最も高く、次いで、『身体的暴力』となっています。男女別に見ると、女性は『された』、男性が「何回もしたことがある」と「1、2回したことがある」を合わせた『した』が多い傾向となっています。

殴ったり、蹴ったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体的暴力



人格を否定するような暴言、脅迫やおどし、何を言っても無視するなどの精神的暴力



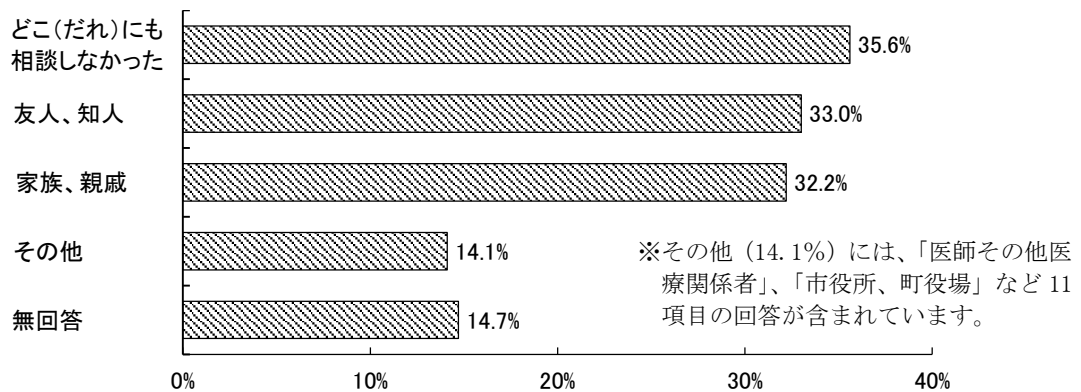
(2) DVを受けた時の相談先

報告書 問27

DVの相談は『しなかった』か、友人や家族などの身近な人にしている

前問で「DVをされたことがある」と回答した人に相談先を尋ねたところ、「どこ(だれ)にも相談しなかった」と答えた人の割合が最も高く、次いで「友人、知人」や「家族、親戚」となっており、信頼のある限られた人間関係の中で相談していることがわかります。

[全体] 複数回答 N=388



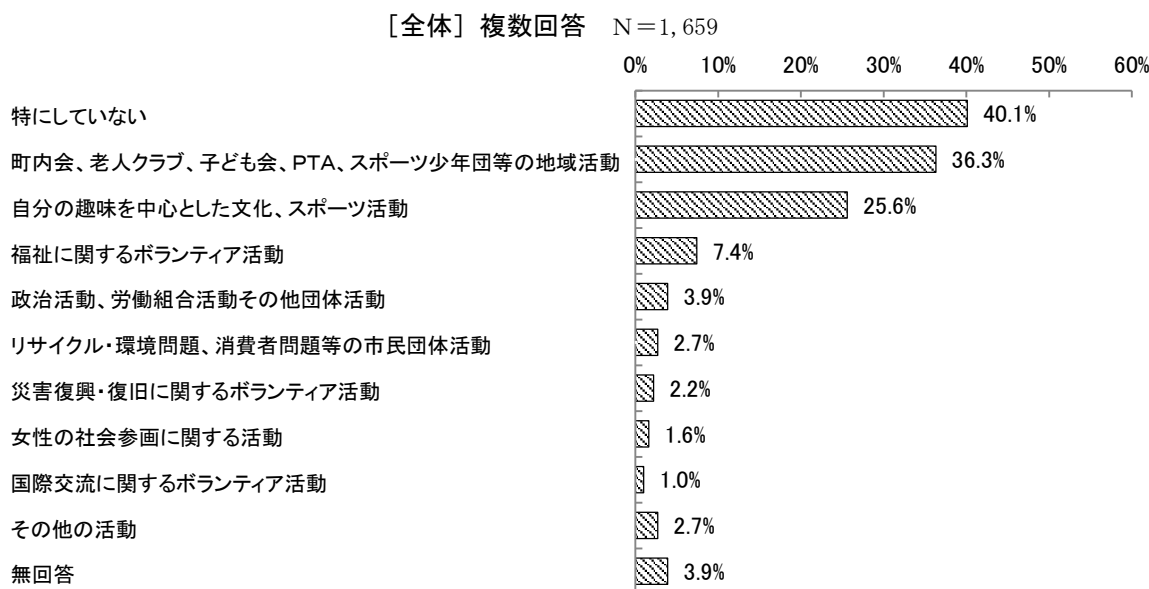
6. 地域活動等、社会参加について

報告書 問29

40代と60代は『地域活動』、70代以上は『文化、スポーツ活動』が多い

団体・グループ等で仕事以外の活動をしているかを尋ねたところ、「特にしていない」が最も多く、次いで町内会などの『地域活動』となっています。前回・前々回調査の1位と

年齢層別に比較すると、60歳以上は『地域活動』や『文化・スポーツ活動』が初めて1位となり、いずれも4割以上となっています。



[前回調査との1位比較] 複数回答

	今回 N=1,586	H21年度意識調査 N=1,339	H11年度意識調査 N=2,005
20～29歳	特にしていない 61.8%	特にしていない 55.5%	特にしていない 63.8%
30～39歳	特にしていない 48.4%	特にしていない 49.5%	特にしていない 39.9%
40～49歳	『地域活動』 45.7%	『地域活動』 43.6%	『地域活動』 35.8%
50～59歳	特にしていない 44.2%	特にしていない 46.8%	特にしていない 40.8%
60～64歳	『地域活動』 41.1%	特にしていない 42.6%	(60代) 特にしていない 37.7%
65～69歳	『地域活動』 48.5%	特にしていない 38.7%	
70歳以上	『文化、スポーツ活動』 46.1%	特にしていない 41.1%	(70代) 特にしていない 39.5%

7. 防災・復興について

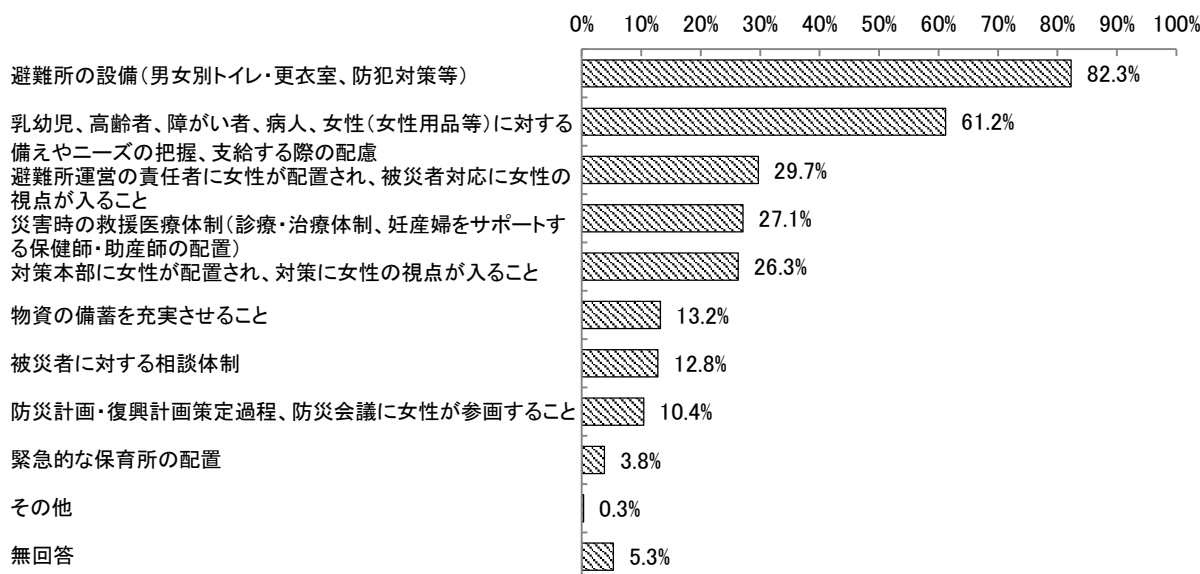
(1) 性別に配慮した災害時の対応の必要性

報告書 問31

性別による違いに配慮した『避難所の整備』と『現場対応』が5割を超える

災害時に、性別に配慮した対応が必要なものについて尋ねたところ、トイレや更衣室などの『避難所の整備』と『ニーズの把握、支給する際の配慮』が5割を超えるなど、性別や年齢などに配慮した、きめ細やかな現場対応を求める声が多くなっています。

[全体] 複数回答 N=1,659



8. 男女共同参画社会の実現に向けた取り組みについて

(1) 用語の認知度

報告書 問32

「男女共同参画社会」「ワーク・ライフ・バランス」の認知度は高まっている

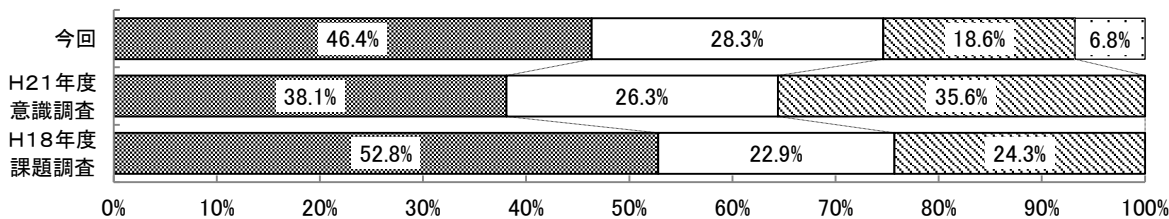
男女共同参画社会に関連する用語を知っているか尋ねたところ、「男女共同参画社会」は約5割が「言葉も意味も知っていた」と回答しており、「ワーク・ライフ・バランス」とともに、前回よりも認知度が高まっていることがわかります。また、「DV」については、約8割の人が「言葉も意味も知っていた」と回答しています。

「男女共同参画社会」の認知度

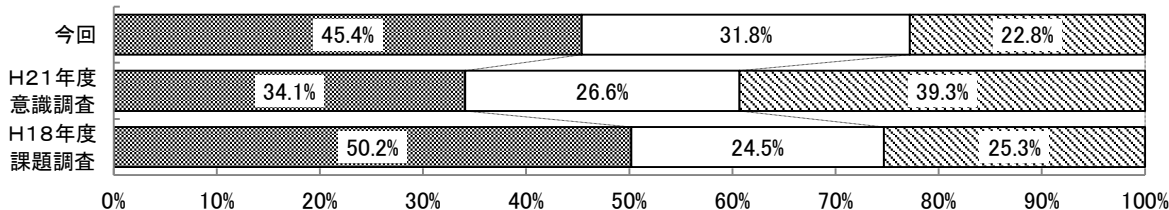
[前回調査との比較 全体・男女別]

■言葉も意味も知っていた □言葉は知っていたが意味は知らなかった ▨言葉も意味も知らなかった □無回答

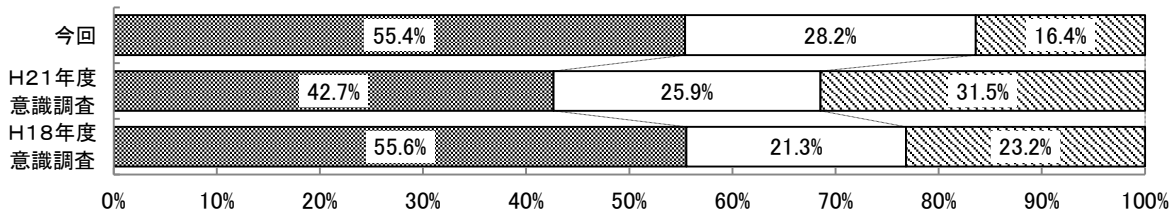
全体 今回：N=1,659 H21年度意識調査：N=1,339 H18年度課題調査：N=1,931



女性 今回：N=877 H21年度意識調査：N=713 H18年度課題調査：N=1,004



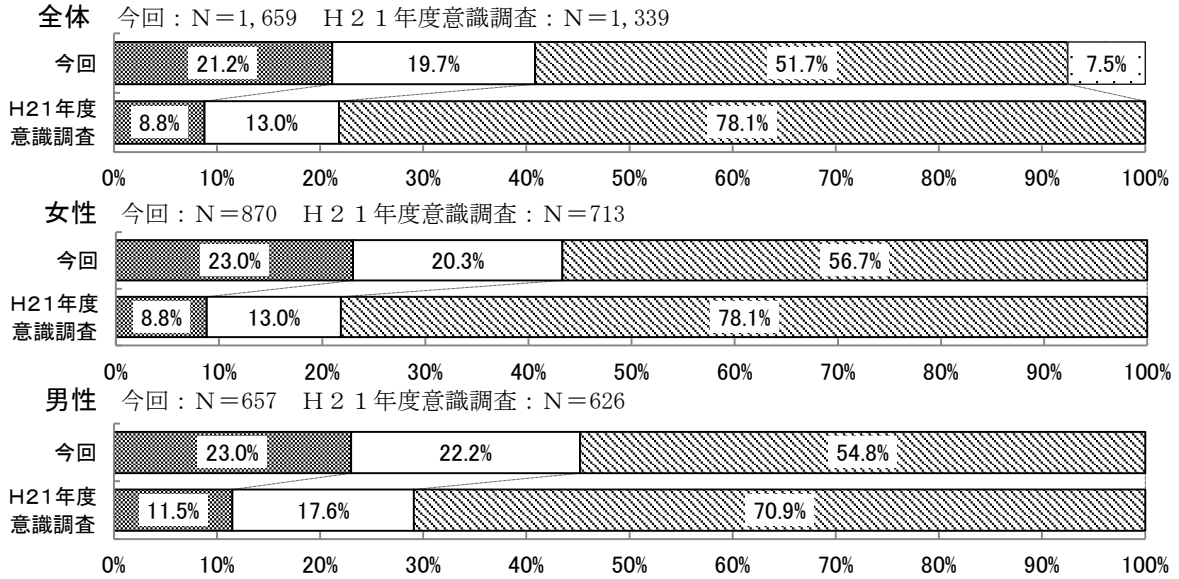
男性 今回：N=663 H21年度意識調査：N=626 H18年度課題調査：N=927



「ワーク・ライフ・バランス」の認知度

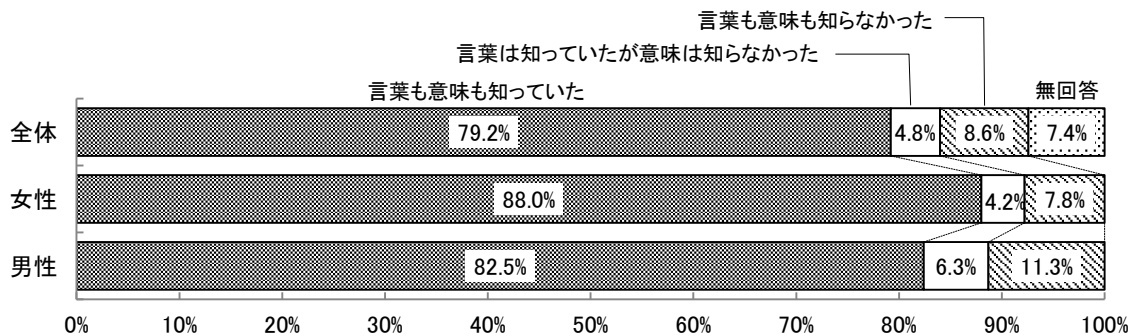
[全体・男女別・前回調査との比較]

■言葉も意味も知っていた □言葉は知っていたが意味は知らなかった ▨言葉も意味も知らなかった □無回答



「ドメスティック・バイオレンス（DV）」の認知度

[全体・男女別] 全体N=1,659 女性N=874 男性N=656



《調査に関するお問い合わせ》

山形県子育て推進部若者支援・男女共同参画課

担当：男女共同参画担当

電話：023-630-2101（直通）

FAX：023-632-8238